



特集

始まる、「新時代の学び」

急速に情報化が進む現代社会。仕事や家庭など、あらゆる場所でパソコンやタブレット端末などのICT機器が活用されています。今回は、子どもたちの可能性を広げるため、町内の小中学校で取り組んでいる「ICT教育」の一部を紹介します。

問い合わせ 教育総務課

学校教育の現状と 社会環境の変化

私たちを取り巻く社会は、グローバル化や少子高齢化の進展、情報技術をはじめとした科学技術の革新、大規模災害の発生、新型感染症への対応などにより、大きく変化しています。同様に、子どもたちを取り巻く環境も変化を続けており、これからの社会に順応する力を身に付ける必要があります。

未来を担う子どもたちが、変わりゆく社会の中で、自分らしく希望を持って生きていけるように、学校での授業も進化を続けています。

変わりつつある 子どもたちの「学び」

これまでの授業は、「先生が教科書を中心に、黒板とチョークを使って教える」という方法で行われていました。しかし近年は、電子黒板などのICT機器を活用して写真や動画などの資料を投影したり、デジタル教科書などの教材ソフトを使用したりするなど、新しい方法の授業が行われるようになりました。

このように、教育現場で電子機器の普及が進む中、文部科学省は令和元年に学校教育のデジタル化方針「GIGAスクール構想」を提言。学校教育のあり方は今、大きく変わろうとしています。

▼タブレット端末やマイクロビット（小型のコンピューター）を使って行われるプログラミング学習





※ GIGA = 「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字を取ったもの。「全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉」を意味する

「GIGAスクール」と学びの新しいカタチ

「GIGA(※)スクール構想」は、児童・生徒1人に1台ずつのコンピューター端末の整備に加え、学校に高速・大容量の通信ネットワークを構築する取り組みです。

町でも「1人1台」の良さを最大限に生かし、一人一人の学びを大切に、質の高い授業づくりを進めています。



「1人1台」の端末で、授業はどう変わる??

「1人1台」の端末環境がもたらすさまざまな効果 (例)

子ども一人一人の
反応を教師が把握できる



それぞれの反応を踏まえた双方向の授業へ

同時に別々の内容を
学習できる



個人の理解度に応じた指導が可能に

友達と考えを共有し
学び合うことができる



意見交換やグループ活動の効率アップ

インターネットを使って
独自に情報を収集できる



資料作り・調べ学習などに効果を発揮

これまでの教育

×

ICT※

=

学習活動の充実・
授業の改善

※ ICT = 「Information and Communication Technology」の頭文字を取ったもの。通信技術を活用したコミュニケーションを指す

進化を続ける まちのICT教育



模擬オンライン授業 (戸切小学校)



オンラインでの生徒会役員選挙 (岡垣中学校)

町内の学校でも ICT機器を活用しつつある

令和2年度に、町内の小中学校では、児童・生徒1人に1台ずつのタブレット端末の貸与が完了しました。これにより、従来の授業に比べて分かりやすく・自由度の高い授業が可能になったほか、休校などに備えて模擬環境でのオンライン授業を行うなど、さまざまな方法でタブレット端末が活用されています。

そのほかにも、運動会の様子を教室で配信したり、生徒会の役員選挙をオンラインで行ったりするなど、ICT機器活躍の場は授業に限らず、多方面に広がりを見せています。

現在、例に挙げた使い方以外にも、ICT機器を有効活用できる方法を各学校が模索している状況です。これからの時代を生き抜く子どもたちにとって、より学びやすい環境を整えていくために、さらなる活用が期待されます。

町内の小中学生たちにインタビュー！

タブレット端末を使ってみた感想は？



教科書やノートだけではなく、直感的な操作ができるタブレット端末もあわせて使うことで、授業が分かりやすくなったと思います。

吉木小学校6年生
草野 陽菜多さん (高倉区)



調べ学習などをするとき、前までは図書室やパソコン室に移動する必要がありました。今はタブレット端末でいつでも調べることができるので、とても便利です。

吉木小学校6年生
大田 玄徹さん (高塚区)

国語や理科、英語など、多くの科目でタブレット端末を使っています。また、学校で使う端末は、スマートフォンやパソコンなどの機器を普段あまり使わない人でも、操作しやすいように感じます。

岡垣中学校3年生
石原 昊さん (海老津区)



このほかにも……

- プログラミングを使った授業が楽しい
- タブレット端末を辞書の代わりに使えて便利
- 資料づくりなどが簡単になった

などの声が寄せられました。



情報モラルを学ぶ児童 (海老津小学校)



プログラミングを使った理科の授業 (吉木小学校)



内浦小学校 校長
 宮原 仁美 さん

時代の流れに沿った教育を

情報化社会で活躍できる人材になるように

これからの時代では、ICT機器を使って人や社会とつながり、知識や経験を得て生きていくことが当たり前になってきます。このような世界で、子どもたちが将来活躍できるように、岡垣町では、各小中学校・教育委員会の担当で構成される「学校教育情報化検討委員会」を中心に、ICT機器などの環境整備や授業づくりの検討を進めています。



▲検討委員会の様子

子どもたちが主体的に学べる授業を目指して

子どもたちにとって学校の授業は、先生に「教えてもらう」ものから自分たちで「学ぶ」ものになりつつあります。疑問点や分からないことを自分で調べ、解決する力を身に付けられるように、各小中学校でもICT機器を活用し「自分たちで考え、主体的に問題解決を目指す授業」を推進しています。

今後は、タブレット端末の家庭への持ち帰りも検討しています。インターネットの環境整備や端末の使用などについて、お手数をおかけすることもあるかと思いますが、保護者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

子どもたちの効果的な学習のために

町内の小中学校でタブレット端末の活用が始まってから約半年。現在も各学校で、タブレット端末をさらに有効活用すべく挑戦を続けています。新しい技術が次々と生まれ、教育のあり方が変化する中、子どもたちがより効果的に学習できるように、社会の動向にあわせた教育環境を整備する必要があります。

GIGAスクール構想は、これからの情報化社会で子どもたちが「生きる力」を身に付けるための大きな柱です。今後子どもたちの可能性を広げられるように、教職員をはじめとした関係者、そして保護者の皆さまと力を合わせて、ICT機器を活用した「新しい学び」の提供を推進していきます。



岡垣町教育長
 佐々木 敏幸